

## 25年の区切りを超えて ～ATAC 25周年記念講演会を終えて～

一般財団法人 大阪科学技術センター  
ATAC 運営委員長 梶原 孝生



今年の秋は台風が連続して我が国を直撃し、また秋雨前線の影響で長雨が続き、なかなか秋晴れに恵まれません。

そんな悪天候のなかで、皆様の足元の悪さを心配したのですが、なんと200名を超える多くの方々がATAC 25周年記念講演会にお越しを頂きました。ATACのメンバーは技術集団でもあり、この種の催しに慣れていないため、混雑のなかで何かと不都合もあったかと思いますがお許しください。この紙面をかりてお詫びを申し上げます。

世の中には、大量の退職者があふれ、シニア集団の活躍する中小企業の支援機関も全国に数多く存在します。しかし、数年で店じまいする組織も多く見受けられます。数年やって「もう飽きた」、「思っていたほど顧客がなかった」、「メンバーが歳を取った」などの理由が多いようです。

それは組織の運営を自分たちだけの価値判断でしているからではないでしょうか？我々は主として大企業を定年退職しているメンバーです。高度成長期の大企業で30数年間、それぞれに頑張ったでしょうが、その間に社会から多大の恩恵を受けたことを改めて認識するべきなのでしょう。

その恩恵のご恩返しをすることが、これから

生きてゆく上で大切なことに気が付くべきなのです。

ATACはそこにこそ継続して活動する原点を持っています。お陰様で25年を迎えることが出来ました。

記念講演会は25年のコンサルティングを通してお付き合い頂いた多くの方々もご出席いただき、あたかも同窓会のような懐かしいお顔合わせも出来ましたが、多人数のためにご挨拶も出来ず失礼をしてしまった方もおられ、いま残念に思っているところでもあります。

当日も申し上げましたが、ATACは25年を迎え、また新たな覚悟で使命を達成すべく頑張る参ります。厳しい時代を生き抜く中小企業の皆様が抱える種々の難問に対し、我々のもつ能力をすべて出し尽くし応えて参る所存です。ご指導を宜しくお願い致します。



25周年記念講演会のあとの「感謝会」終了後、  
ATACのメンバー全員の写真